

【令和7年度 学校評価アンケート結果】

～生徒・保護者・職員による評価の比較～

↑	+10以上
↗	+3～10
↘	-10～-3
↓	-10以下

調査日：令和7年11月18日(火)～28日(金)

回収率：生徒：97.1%，保護者：75.2%，職員：100%

回答：4・そう思う 3・どちらかといえばそう思う 2・どちらかといえばそう思わない 1・そう思わない

1 学科の特色を十分に理解し、そのよさを生かした学校生活が送れている。

今年度		4	3	2	1	平均		
							4+3	2+1
	生徒	42.5	50.0	5.5	2.0	3.3	92.5	7.5
	保護者	40.0	54.2	5.8	0.0	3.3	94.2	5.8
	職員	20.5	75.0	4.5	0.0	3.2	95.5	4.5

昨年度		4	3	2	1	平均		
							4+3	2+1
	生徒	42.3	50.2	5.0	2.5	3.3	92.5	7.5
	保護者	44.9	50.0	4.4	0.7	3.4	94.9	5.1
	職員	34.8	60.9	4.3	0.0	3.3	95.7	4.3

本校の学科の特色の理解及びそれを生かした学校生活については、生徒・保護者・職員のいずれにおいても肯定的評価が9割を超えており、高い評価を得ている。特に保護者・職員からの評価は安定しており、学校の教育内容や方針が一定程度共有されていることがうかがえる。一方で、生徒の一部には実感できていない層も見られるため、学科の特色をより具体的に体験・実感できる取組の充実が今後の課題である。

2 課題（宿題）やテスト勉強などに着実に取り組み、家庭での学習に努めている。

今年度		4	3	2	1	平均		
							4+3	2+1
	生徒	14.0	48.0	32.0	6.5	2.7	62.0 ↘	38.5
	保護者	27.7	49.0	22.6	0.6	3.0	76.7	23.2
	職員	22.7	68.2	9.1	0.0	3.1	90.9 ↗	9.1

昨年度		4	3	2	1	平均		
							4+3	2+1
	生徒	17.4	51.7	27.4	3.5	2.8	69.2	30.8
	保護者	31.6	46.3	18.4	3.7	3.1	77.9	22.1
	職員	29.3	53.7	17.1	0.0	3.1	83.0	17.1

生徒の肯定的評価が昨年度から低下しており、課題や家庭学習への自己評価が下がっていることがうかがえる。保護者は横ばいで、生徒より高く評価している。職員の肯定的評価は大きく上昇しており、学校側は取組の定着を強く感じている。否定的評価は生徒で増加しており、意欲や学習観に課題が残る。三者の評価に差が見られるため、課題や家庭学習の見える化や声かけの工夫が今後の改善点と考えられる。

3 日々の健康維持や管理、健康増進を心がけながら生活できている。

今年度		4	3	2	1	平均		
							4+3	2+1
	生徒	43.0	41.0	14.0	2.5	3.3	84.0	16.5
	保護者	48.4	47.1	4.5	0.0	3.4	95.5	4.5
	職員	40.9	56.8	2.3	0.0	3.4	97.7	2.3

昨年度		4	3	2	1	平均		
							4+3	2+1
	生徒	36.3	49.8	11.4	2.5	3.2	86.1	13.9
	保護者	54.4	38.2	5.9	1.5	3.5	92.6	7.4
	職員	54.8	42.9	2.4	0.0	3.5	97.6	2.4

三者ともに肯定的評価が高く、特に保護者・職員は9割を超えている。今年度は生徒の肯定的評価が昨年よりやや低下している。生徒の健康意識をさらに高めるための具体的な支援や働きかけが今後の課題である。

- 4 行動規範力 基本的な生活習慣を身につけ、学校や社会のルールを守り、地域社会からも信頼されるように行動している。

今年度		4	3	2	1	平均		
	生徒	44.5	46.0	9.0	0.5	3.3	4 + 3	2 + 1
	保護者	49.7	47.7	2.6	0.0	3.5	97.4	2.6
	職員	34.1	61.4	4.5	0.0	3.3	95.5	4.5

三者ともに高評価である。保護者・職員の規範意識育成が生徒の規範意識の向上に反映している。今後も、生徒自身の納得感を高める指導や説明を工夫することで、さらなる意識向上が期待できる。

- 5 忍耐力 学業や部活動等において、たとえ困難な状況にあるときでも、目標達成に向かって継続的に努力している。

今年度		4	3	2	1	平均		
	生徒	37.0	47.5	14.5	1.5	3.2	4 + 3	2 + 1
	保護者	45.8	46.5	7.7	0.0	3.4	92.3	7.7
	職員	29.5	68.2	2.3	0.0	3.3	97.7	2.3

保護者と職員の9割以上が忍耐力育成につながる関わりをしているが、生徒の自己評価が最も低い。忍耐力育成の生徒自身の実感がやや弱い点が今後の指導改善の視点として考えられる。

- 6 発見力 学業や部活動等において、日頃から振り返りをして、さらなる改善策を見つけている。

今年度		4	3	2	1	平均		
	生徒	29.5	43.0	23.5	4.5	3.0	4 + 3	2 + 1
	保護者	32.3	52.3	14.2	1.3	3.2	84.6	15.5
	職員	25.0	72.7	2.3	0.0	3.2	97.7	2.3

三者の評価に大きな差がある。特に職員は生徒の発見力育成に関して肯定的に捉えている一方、生徒は約4人に1人が「2・1（否定的）」を選んでおり、ギャップがある。取組自体は一定の成果をあげているものの、生徒には「振り返りや改善が十分伝わっていない」可能性が示唆される。今後は、取組の意図や改善内容を生徒が実感できる形で共有する工夫が課題である。

- 7 創造力 学業や部活動等において、自らの課題について、いつもと同じ方法ではなく、新しい解決法を模索する努力をしている。

今年度		4	3	2	1	平均		
	生徒	22.5	47.0	25.0	6.0	2.9	4 + 3	2 + 1
	保護者	24.5	50.3	22.6	1.9	3.0	74.8	24.5
	職員	18.2	72.7	9.1	0.0	3.1	90.9	9.1

肯定的評価は職員の評価が最も高い結果となっている。職員の取組意識に比べると、生徒側の実感が十分に伴っていない可能性がある。今後は生徒自身が「新しい解決方法を試している」と実感できる学習場面の可視化が求められる。

- 8 計画力 計画的に学習に取り組み、将来の進路も、計画的に考えたり調べたり、先生や保護者に相談したりしている。

今年度		4	3	2	1	平均		
	生徒	28.0	43.0	23.5	6.0	2.9	4 + 3	2 + 1
	保護者	32.3	54.2	13.5	0.0	3.2	86.5	13.5
	職員	34.1	63.6	2.3	0.0	3.3	97.7	2.3

職員は97.7%と学校として計画的な指導が行われているという認識が強いことが分かる。一方、生徒の肯定意識は71.0%にとどまり、保護者や職員との間に認識の差が見られる。今後は、生徒自身が計画性の向上を実感できるよう、取組の見える化や振り返りの機会を充実させることが課題である。

- 9 実行力 授業に真面目に取り組み、自己の向上のために、資格取得や検定受検にも積極的に挑戦している。

今年度		4	3	2	1	平均	➡		4 + 3	2 + 1
	生徒	21.5	41.0	33.5	4.5	2.8		生徒	62.5	38.0
	保護者	31.6	51.0	17.4	0.0	3.1		保護者	82.6	17.4
	職員	29.5	63.6	6.8	0.0	3.2		職員	93.2	6.8

実行力育成のために保護者や職員は肯定的な評価をしているが、約4割の生徒が否定的な評価をしている。生徒自身は努力実感や達成感を十分に持てていない可能性を示唆する。今後は、生徒が自分の成長を実感できる振り返りや評価の工夫が課題である。

- 10 傾聴力 友人の悩みや相談に親身になって応じ、理解しようとしている。

今年度		4	3	2	1	平均	➡		4 + 3	2 + 1
	生徒	48.5	44.0	6.5	1.5	3.4		生徒	92.5	8.0
	保護者	43.2	50.3	6.5	0.0	3.4		保護者	93.5	6.5
	職員	38.6	56.8	4.5	0.0	3.3		職員	95.5	4.5

三者の評価に大きな乖離はみられない。全体として、相談に寄り添い理解しようとする姿勢が学校全体で共有されていることがうかがえる。

- 11 発信力 自分の意見や考えを分かりやすく周りの人に伝えることができている。

今年度		4	3	2	1	平均	➡		4 + 3	2 + 1
	生徒	22.5	46.0	26.5	5.5	2.9		生徒	68.5	32.0
	保護者	33.5	59.4	7.1	0.0	3.3		保護者	92.9	7.1
	職員	29.5	70.5	0.0	0.0	3.3		職員	100.0	0.0

生徒の約3割が否定的な評価をしており、自己評価がやや厳しい傾向が見られる。一方、保護者や職員は肯定的評価が高く、発信力を十分に育成できていると捉えている。三者の認識のギャップが明確で、生徒が自分の考えを伝えることに自信を持ち切れていない可能性を示している。今後は、生徒自身が「伝わった経験」を実感できる振り返りや評価の工夫が課題と考えられる。

- 12 理解力 分からないことは、自分で調べたり、周りの人に聞いて理解しようとしている。

今年度		4	3	2	1	平均	➡		4 + 3	2 + 1
	生徒	33.0	51.5	14.5	1.5	3.2		生徒	84.5	16.0
	保護者	34.8	54.2	10.3	0.6	3.2		保護者	89.0	10.9
	職員	43.2	54.5	2.3	0.0	3.4		職員	97.7	2.3

三者ともに肯定的評価が高い結果になった。特に、職員は97.7%と非常に高く、指導側の自己評価は強い傾向が見られる。一方、生徒の肯定的評価は保護者や職員と比べるとやや低い。今後は、生徒自身が「理解しようとしている」と実感できる支援や声かけを、より意識的に行うことが課題である。

- 13 協働力 学校での日々の清掃や学校行事、地域連携活動を通して、学校活性化や地域社会の課題に積極的に取り組んでいる。

今年度		4	3	2	1	平均	➡		4 + 3	2 + 1
	生徒	31.0	45.5	21.0	2.5	3.1		生徒	76.5	23.5
	保護者	31.6	47.1	20.6	0.6	3.1		保護者	78.7	21.2
	職員	31.8	59.1	9.1	0.0	3.2		職員	90.9	9.1

生徒の肯定的評価は、保護者とほぼ同水準であり、学校の取組が一定程度共有されていることがうかがえる。一方で、生徒は否定的評価がやや高く、実感の個人差が見られる点が課題である。全体として、協働力育成に関する取組は概ね評価されている。今後は、生徒一人ひとりが協働を実感できる場面づくりが求められる。

14 進路情報の提供やガイダンス、模擬試験などの進路指導が充実している。

今年度		4	3	2	1	平均			4 + 3	2 + 1
	生徒	34.0	48.5	15.0	3.0	3.1		生徒	82.5 ↓	18.0
	保護者	30.3	56.8	11.0	1.9	3.2		保護者	87.1	12.9
	職員	4.5	54.5	31.8	9.1	2.5		職員	59.1 ↓	40.9

昨年度		4	3	2	1	平均			4 + 3	2 + 1
	生徒	30.8	54.7	11.4	3.0	3.1		生徒	85.6	14.4
	保護者	32.4	52.9	14.7	0.0	3.2		保護者	85.3	14.7
	職員	17.8	51.1	28.9	2.2	2.8		職員	68.9	31.1

生徒・保護者共に肯定的評価が8割を超えており、進路情報の提供やガイダンスは引き続き高く評価されている。一方で、職員の肯定的評価は約6割と、生徒・保護者に比べて大きく低い。生徒・保護者は昨年度とほぼ同水準で安定しており、外部からの評価は維持されていると言える。今後は、職員側が感じている業務負担や支援体制の課題を丁寧に把握することが改善の鍵となる。

15 進路実現のため、資格や各種検定等を計画的に取得・受検できる。

今年度		4	3	2	1	平均			4 + 3	2 + 1
	生徒	27.5	51.5	17.5	4.0	3.0		生徒	79.0 ↓	21.5
	保護者	29.0	53.5	15.5	1.9	3.1		保護者	82.5 ↓	17.4
	職員	9.1	68.2	13.6	9.1	2.8		職員	77.3 ↓	22.7

昨年度		4	3	2	1	平均			4 + 3	2 + 1
	生徒	34.8	50.2	12.4	2.5	3.2		生徒	85.1	14.9
	保護者	33.8	55.1	10.3	0.7	3.2		保護者	89.0	11.0
	職員	17.8	66.7	11.1	4.4	3.0		職員	84.5	15.5

三者ともに昨年度より低下している。特に生徒は昨年度から約6ポイント減少しており、計画的な資格取得への実感が弱まっていることがうかがえる。一方で全立場で否定的評価が増加しており、取組の見えにくさや支援不足を感じている層が増えている可能性がある。今後は、資格取得の計画や進捗をより可視化し、生徒・保護者に具体的に伝える工夫が求められる。

16 基本的な生活習慣、学校や社会のルールがよく指導されており、学校の方針や生活指導は納得できる。

今年度		4	3	2	1	平均			4 + 3	2 + 1
	生徒	37.5	45.0	14.5	3.5	3.2		生徒	82.5 ↓	18.0
	保護者	35.5	52.3	10.3	1.9	3.2		保護者	87.8	12.2
	職員	9.1	56.8	25.0	9.1	2.7		職員	65.9 ↓	34.1

昨年度		4	3	2	1	平均			4 + 3	2 + 1
	生徒	36.3	50.7	10.0	3.0	3.2		生徒	87.1	12.9
	保護者	36.0	50.7	11.8	1.5	3.2		保護者	86.8	13.2
	職員	20.0	73.3	11.1	2.2	3.0		職員	93.3	13.3

生徒・保護者ともに肯定的評価が8割前後と高く、基本的な生活習慣や学校の方針について概ね理解・納得されていることが分かる。一方、職員の肯定的評価は大きく低下し、否定的評価が増加している点が特徴的である。指導やルール運用に対する職員側に課題意識が高まっていることがうかがえる。今後は、職員の感じている困難や改善点を共有し、校内での共通理解を深める取組が必要である。

- 17 体育祭，文化祭，全校レクリエーション（旧クラスマッチ）等の，学校行事が活発で充実している。

今年度		4	3	2	1	平均		
	生徒	43.5	44.0	10.0	3.0	3.3	4 + 3	2 + 1
	保護者	44.5	51.6	2.6	1.3	3.4	87.5 ↓	13.0
	職員	18.2	68.2	13.6	0.0	3.0	96.1	3.9

昨年度		4	3	2	1	平均		
	生徒	54.7	37.3	7.0	1.0	3.5	4 + 3	2 + 1
	保護者	48.5	48.5	2.2	0.7	3.4	92.0	8.0
	職員	28.9	66.7	6.7	2.2	3.2	97.1	2.9

三者ともに肯定的評価が8割を超え，高い水準にある。特に保護者の評価が最も高く，学校行事への信頼感が強いことがうかがえる。一方，生徒・職員では昨年度より肯定的評価が低下しており，現場での負担感や受け止め方の変化が影響している可能性がある。今後は生徒・職員の実感を丁寧にこみ取った運営改善が課題である。

- 18 部活動や生徒会活動が活発である。

今年度		4	3	2	1	平均		
	生徒	41.0	39.5	15.5	4.5	3.2	4 + 3	2 + 1
	保護者	36.1	50.3	12.3	1.3	3.2	80.5 ↓	20.0
	職員	2.3	59.1	31.8	6.8	2.6	86.4 ↓	13.6

昨年度		4	3	2	1	平均		
	生徒	41.8	50.2	6.0	2.0	3.3	4 + 3	2 + 1
	保護者	39.7	50.0	9.6	0.7	3.3	92.0	8.0
	職員	6.7	64.4	26.7	2.2	2.8	89.7	10.3

三者ともに肯定的評価が昨年度より低下している。特に生徒は12ポイント大きく下がり，否定的評価が増加している点が目立つ。一方，職員は肯定的評価が最も低く，否定的評価が最も高いことから，課題意識が強いことがうかがえる。全体として，昨年度と比べ活動の活発さに対する認識が厳しくなっていることが読み取れる。

- 19 学校は清掃が行き届き，学習するための環境が良く整備されている。

今年度		4	3	2	1	平均		
	生徒	30.0	48.0	17.5	5.0	3.0	4 + 3	2 + 1
	保護者	39.4	52.3	6.5	1.3	3.3	78.0 ↓	22.5
	職員	2.3	50.0	34.1	13.6	2.4	91.7 ↓	7.8

昨年度		4	3	2	1	平均		
	生徒	29.4	56.7	11.9	2.0	3.1	4 + 3	2 + 1
	保護者	36.0	58.8	3.7	1.5	3.3	86.1	13.9
	職員	8.9	60.0	28.9	2.2	2.8	94.9	5.1

保護者の肯定的評価が非常に高く，学校の環境整備への信頼がうかがえる。一方，職員の肯定的評価は，生徒・保護者に比べて低く，否定的評価が高い点が特徴的である。清掃や環境面の取組は一定の成果を上げている一方，職員側の負担感や課題意識が強まっている可能性が示唆される。

20 薩摩中央高校に入学して良かった。

今年度		4	3	2	1	平均		
	生徒	45.0	33.5	18.0	4.0	3.2	生徒	78.5 ↓
	保護者	50.3	43.2	4.5	1.3	3.4	保護者	93.5
	職員	4.7	62.8	27.9	4.7	2.7	職員	67.4 ↓

昨年度		4	3	2	1	平均		
	生徒	41.2	45.7	8.0	5.0	3.2	生徒	86.9
	保護者	57.4	39.0	2.9	0.7	3.5	保護者	96.3
	職員	8.9	80.0	11.1	0.0	3.0	職員	88.9

昨年度と比較すると、生徒・職員ともに肯定的評価が大きく低下しており、満足度の後退が明確である。一方、保護者の評価は依然として高水準を維持している。今後は生徒・職員の評価低下が課題であり、その要因分析と改善が求められる。